

2019年度（第5期）
里山笑楽校活動報告書

1. 活動の目的

里山笑楽校の目的は、都市と農村、上流域と下流域の交流によって経済と環境の両面において持続可能な地域モデルを創り上げる事である。山王寺棚田は、斐伊川水系の上流域に位置し簸川平野、宍道湖、中海の環境に影響を与えていた。山王寺棚田をモデル地域として、下流域の都市住民に棚田保全活動に参加してもらう事で耕作放棄を減らし、地域に賑わい創りだす。そして、農薬・化学肥料を使わない農業を実施する事で宍道湖・中海の環境保全を目指す。後は難しいことを考えない。基本は「笑って・楽しく・学ぶ」ことである。

2. 活動の実施状況

1) 出雲國まこもプロジェクトを継続（持続可能な地域モデル）

本プロジェクトは「まこも」栽培と六次産業化を通じて以下の事を目指す。

- ①休耕田を活用して「人と自然が共生できる環境づくり」を目指す。
- ②「まこも」を通して「地域の賑わいを創る」を目指す。
- ③「まこも」によって経済的課題を解決

① 人と自然が共生できる環境づくり

7月に「タガメの里親プロジェクト」を実施した。タガメは棲む環境を奪われ絶滅危惧I類（島根県）となっている。ビオトープで繁殖を試みる。また、ビオトープをさらに4カ所拡大した。

② 経済的課題解決

棚田カフェはシェフ家族の経済的な自立が困難であった為 12月をもって営業を断念した。再度、募集をして営業にこぎ着けたい。まこもの販路は順調に推移している。新たにキクイモを育てているので次の特産品として期待できる。

4. 助成事業一覧

事業名	事業額	助成額	用途
雲南市協働で叶える市民活動促進事業	221,120円	200,000円	タガメの里親事業
雲南市			